

写真で見る大久保病院の今昔（3）

《現在の病院の写真》



【写真】

- （1）と同じ角度からとった現在の病院（令和6年・開業145年目）

【説明】

- 病院棟は手前側、奥側がオフィス棟。
二つの建物は中央のアトリウム部で接続されています。
- 病院棟は、地下3階、地上18階の高層病院に
生まれ変わりました。
- 建物周辺には公開空地が整備され、
緑豊かな心地よい空間・自由通路になっており、
アトリウムと合わせ、地域のオアシス的存在となっています。

【病院の年表と関連写真】

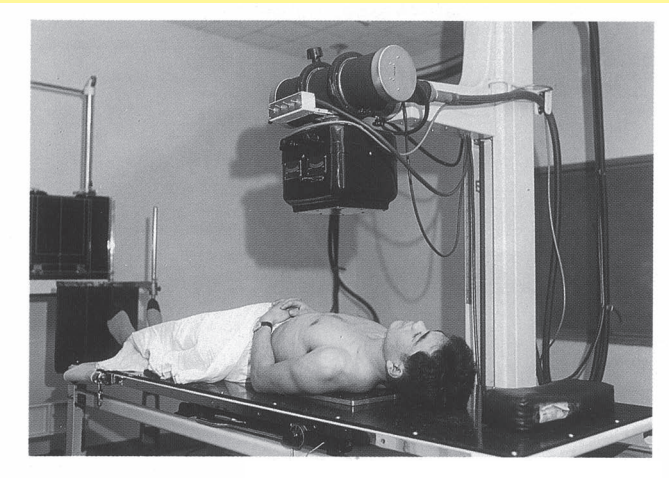
「大久保病院の歴史」

- ① 初代内田院長の肖像
(昭和4年6月～昭和23年12月)



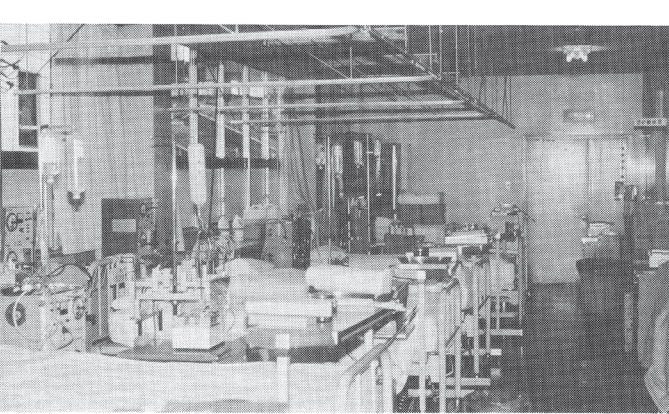
(出典)「病院半世紀のあゆみ」(大久保病院)

- ② がんセンター



(出典)「東京都政50年史」(東京都)

- ③ 透析センター



(出典)「病院半世紀のあゆみ」(大久保病院)

区分	年 月	主 な 出 来 事
避病院	明治12年(1879年)8月	東京地方衛生会立の「避病院」(伝染病専門病院)として発足(布達①)
	明治14年(1881年)	東京府に移管
	明治19年(1886年)8月	百人町の陸軍用地から現在地(市外大久保村東大久保)に移転(官報②)
	明治30年(1897年)5月	東京市に移管(臨時病院として使用)
隔離所	大正3年(1914年)	廃止。改築の上「隔離所」(感染の恐れのある者を隔離収容する施設)として開設
	大正12年(1923年)9月	関東大震災により崩壊
総合病院・旧病棟	昭和4年(1929年)3月	関東大震災の帝都復興計画により、「5大市立病院の一つ」として改築・開設
	昭和4年(1929年)6月	普通病院(内科・外科等)に、伝染病棟を併設して発足(①及び告示③)
	昭和14年(1939年)3月	伝染病棟を廃止。完全に一般普通病院として総合病院化
	昭和18年(1943年)	東京都制度の創設に伴い、都立大久保病院と改称
	昭和20年(1945年)4月	空襲により、一部施設(看護婦宿舎・木造伝染病舎等)が焼失
	昭和24年(1949年)5月	焼失部分の復旧完成
	昭和25年(1950年)9月	区画整理により、後庭に公園(区立大久保公園)を設置。用地縮小
	昭和35年(1960年)8月	がんセンター竣工(②)
	昭和42年(1967年)3月	診療棟竣工
	昭和47年(1972年)3月	透析センター開設(③)
総合病院・ハイジア	昭和53年(1978年)12月	新外来棟竣工
	昭和62年(1987年)7月	全面改築に伴い、病院を休止
	平成5年(1993年)5月	ハイジアと一体となった建物で、都立大久保病院が再開
	平成16年(2004年)	東京都保健医療公社へ移管(公社化)。女性専用外来設立
	平成20年(2008年)	HCU病棟設立
	平成21年(2009年)	生体腎移植を開始。地域医療支援病院承認
	平成22年(2010年)	腎センター開設(④)
	平成26年(2014年)	地域包括ケア病棟の開棟。脳卒中救急365日24時間体制
	令和4年(2022年)7月	地方独立行政法人東京都立病院機構に移行(独法化)
	令和5年(2023年)	脳・心臓・血管センター開設(⑤)、女性医療センター開設(⑥)
	令和6年(2024年)5月	消化器センター開設(⑦)

【参考】大久保病院創設時（避病院・隔離所時代）の状況（「東京百年史」（東京都）から抜粋）

大久保病院は、明治12年(1879年)8月コレラが流行した際、東京地方衛生会が陸軍用地を借り入れ病舎を建設したのに始まり、(中略)明治17年(1884年)9月の暴風雨のため大破したので、19年本郷の避病院建物を市外大久保町大久保530の現在地に移転し、さらに病舎を増設した。明治30年(1897年)東京市営に移り、大正3年まで臨時病院として使用したが、同年病院を廃止して隔離所になった。そして大震災後臨時伝染病院に使用され、さらに敷地の一部に市立病院が建設されるまで特別病舎が伝染病者のために使用された。

《付録》病院から見た特徴のある患者さんの様子～昔も今も変わらない? (「病院半世紀のあゆみ」の「患者アラカルト」から要約)

- ① 入れ墨より痛い手術？
35歳男性。医師の電気メスによる患部の焼灼の勧めにいつも決断できなかったが、5回目ようやく手術台に。手術前の「消毒が痛い。」と訴えるので、医師が「麻酔注射はこれより少し痛いの我慢してください。」と言ったら、突然暴れだし、裸で手術室から逃げ出した。その後病状が悪化し、1か月後に手術することになる。手術前日に来院し、医師にそっと「手術は入れ墨より痛い。」と聞いた。手術当日、医師は電気メスと患者の様子に集中し汗だくになるも、患者は午後から仕事だと意気揚々引き上げていった。
- ② 病棟からの取立て
サングラスと新調スーツに身を固めた若い男。「オッス」と医事課に入室し、保険証の有無で大暴れ。糖尿病で入院中もパーの代金の取り立てをする。過去にも病院を狼狽、困らせたものである。
- ③ 急性アルコール中毒の女子中学生
真夜中か早朝に急性アルコール中毒により救急搬送されてくる女子中学生が、例年3月から4月にかけて5名程度ある。この場合、親に連絡を取り注意を喚起するとともに、必要に応じて学校や区の教育委員会に通報している。
- ④ ジャバ行きさん悲し
フィリピンから出稼ぎに来ている24歳の踊り子。腸閉塞で担ぎ込まれ入院・手術。ところが観光ビザで来日、無保険でその費用50万円は自費負担。所持金がなく、結局店長が支払ったが、こういうケースは泣く泣く国に帰り治療することが多い。

大久保病院関係の官報等

- ① 虎列刺避病院設置の布達（明治12年布達甲第82号）
南豊島郡東大久保村字百人町に虎列刺避病院設立、
本月（明治12年8月）27日午後1時開院相成り候條、
この旨布達候事
明治12年8月27日 東京府知事 楠本正隆
- ② 大久保避病院創設時の官報、（明治19年告示第71号）
大久保避病院本月（明治19年8月）17日より開院す
明治19年8月17日 東京府知事 高崎五六
- ③ 市立大久保病院の設置・診療開始の告示
（昭和2年市告示第365号・366号）
東京市立大久保病院を
東京府豊多摩郡大久保町東大久保530番地に設置す。
（中略）東京市立大久保病院に左記診療科目を増設し
昭和4年6月25日より診療を開始す
記 内科、外科、眼科、産婦人科

④ 腎センター



(提供) 大久保病院

⑤ 脳・心臓・血管センター



(提供) 大久保病院

⑥ 女性医療センター



(提供) 大久保病院

⑦ 消化器センター



(提供) 大久保病院